

平成 28 年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校

学校長 大橋 綾子

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童の育成
～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくり～

2 研究主題設定の理由

昨年度（平成 27 年度）は、広島県教育委員会『学びの変革』パイロット校として、「主体的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。育成したい資質・能力を「主体性」と「思考力」を重点として、国語科と総合的な学習の時間を中心に、児童が目的意識や「学びたい」という意欲をもち、探究し続けるような「課題発見・解決学習」の授業づくりを行った。まず、「主体性」を引き出すための手法として単元開発に取り組み、単元で「付けたい力」や「育成したい資質・能力」を明確に示した海田東小版「学びのドリームプラン」を作成した。「学びのドリームプラン」では、課題設定の際に、児童の学びの上での願いをかなえるための学習活動を設定し、ゴールを明確にすることで、児童の主体的な意欲の育成をめざした。学習の設計図であるこの「学びのドリームプラン」を練り上げ、単元開発を工夫した結果、主体的な学びのある授業づくりをしていこうとする教師の意識が高まり、児童の学習意欲が高まったことが成果として現れた。しかし、「付けたい力」の定着とともに「育成したい資質・能力」の変容等を見取るために、教師の評価力を高めていくことや児童自身の「学びを自覚」する力を向上させることが課題として残った。次に「思考力」の育成に向けては、児童同士の協働的な「学び合い」の場を設定し、思考の場の工夫を行った。その際、思考する場面では、「比較」「分類」「関連付け」「多面的にみる」等の思考の視点に応じた「思考ツール」を活用し、「どのように考えるのか」を明らかにしながら授業づくりを行った。「思考ツール」は、互いの考えを可視化することに有効で、言葉や文章で表現することが苦手な児童でも、単語レベルから表現することができる。これまで一方向であった「学び合い」が、児童同士の双方向のやりとりにつながり、児童の思考に広がりや深まりが生まれ始めている。今後は思考する力をさらに深めるために、どのような思考力を身に付けさせたいのか具体化し、思考力を見取るための評価基準を明確にしていかなければならない。

現在、社会は、グローバル化や情報化が急速に進展し、様々な課題が複雑化し、先を見通すことが難しくなっている。このような先行き不透明な社会においては、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解決できる問題は少ない。そこで、問題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、それを統合して新しい答えを創り出す力、アイデアや情報、知識の交換、共有、およびアイデアの深化や答えの再吟味のために、他者と協働・協調できる力が求められる。また、一人一人がそれぞれのニーズに応じた多様な学習を、あらゆる機会にあらゆる場所において主体的に行い、そこで得た力を社会に生かしていくことが大切である。このような 21 世紀を生き抜くための「21 世紀型能力」は、「思考力」を中核にし、それを支える「基礎力」と使い方を方向付ける「実践力」の 3 つの層で構成されている。中核となる「思考力」は、一人一人が自ら学び判断し、自分の考えをもって、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さ

らに次の問いを見付ける力である。その思考力を支えるのが、読み書き計算などの基礎的な知識や技能を知り、使いこなすことができる「基礎力」である。そして、日常生活や社会の中に問題を見付け出し、価値のある解を導いたり、さらに解を社会に発信するために思考力を自在に使ったりするのが「実践力」である。また、これらの3つの能力は、知識の獲得と定着である「知っている・できる」、知識の意味理解と洗練を図る「分かる」、知識の有意味な使用と創造である「使える」の3つのレベルともとらえられる。本校では、「主体的な学びのある授業づくり」として、この「21世紀型能力」の育成をめざしている。

このような社会の現状や昨年度までの課題をふまえ、本校は、昨年度に引き続き『学びの変革』パイロット校」として、海田南小学校（「学びの変革」実践指定校）と海田中学校3校（海田中学校区）が協働して研究を行う。研究主題を、「主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童生徒の育成」とし、育成したい資質・能力を「主体性」「思考力」に「自己理解」を加え、「主体的な学びのある授業づくり」に取り組んでいく。今年度も引き続き研究の中心的な柱として、国語科と総合的な学習の時間を中核とした、児童が目的意識をもって「学びたい」という意欲をもち、主体的に探究し続けることができるような「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組む。単元開発においては、「主体的に課題を発見し、解決する力」の育成に向けた「学びのドリームプラン」を練り上げ、必然性のある学習内容や本質的な問いとなる課題の設定を大切にする。次の柱として、思考の方向性を「論理的思考力」（比較・分類・構造化・評価）と「創造的思考力」（多面的・関連付け）に整理し、思考の場の工夫を行う。思考の場では、どのように思考させるか思考の視点を児童に具体的に示し、思考の内容を視覚化しながら協働的な学びを促すことができるような「思考ツール」を効果的に活用する。

さらに今年度は、3本目の柱として「自己を理解する力」の育成をめざして、児童自らの学びや学び方を振り返り、自己を分析（モニタリング）する「学習としての『評価』」に取り組む。学習活動として、単元末には「学びのモニタリング」の時間を設定し、児童自らに学習の評価を行わせる。そのためには、単元や1時間の授業のゴールを見通し、どんな力を付けたらよいか評価基準を児童に明確に示し、教師と児童が評価を共有化して学習をすすめていくことが必要である。

そして、児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るために、これまで取り組んできた学習環境づくりと集団づくりを学習基盤とし、支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化、読書活動の推進、スキルタイム（のびっこタイム）の充実、家庭学習の定着等に学校全体で共通に進めていくこととする。

3 研究仮説

「課題発見・解決学習」の単元開発により、児童と教師の評価基準の共有や学び合いにおける協働的な思考の場の工夫した授業づくりを行えば、主体的・協働的に学び自分の考えを表現することができる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

(ア) 児童が主体的に探究し続けようとする「課題発見・解決学習」の単元開発

- ・単元で付けたい力や育成したい資質・能力を明確にした授業づくり

- ・単元構成の工夫

〔必然性のある学習内容，本質的な問い，児童のやる気の灯を灯し続けさせる課題設定〕

<国語科>

単元を貫く言語活動

〔ゴールを明確にしたモデル文の活用，学習計画の活用，目的意識を明確にした並行読書，図書館の活用〕

<総合的な学習の時間>

育てようとする資質や能力を明確にした探究的な単元構成

〔地域・社会貢献を視点に入れた課題設定の工夫，情報の整理・分析の工夫及びまとめ・表現の工夫，地域や海田町内の諸機関との連携，各教科で習得した知識やスキルの活用〕

(イ) 「学び合い」における協働的な思考の場の工夫

- ・思考の視点の明確化〔論理的に考える力…「比較」「分類」「構造化」「評価」など
創造的に考える力…「多面的にみる」「関連付け」など〕

- ・思考を深め，可視化する「思考ツール」の活用

- ・思考スキルの習得をねらいとした「のびっこタイム」

(ウ) 自らの学びを省察する学習としての「評価」の充実

○児童が自らの学びを省察（モニタリング）する場の工夫

- ・単元末における児童が学びや学び方を振り返る「学びのモニタリング」の設定

- ・「学びのモニタリング」の視点の明確化（主体性・思考力・自己理解など）

○付けたい力の定着についての評価の充実

- ・ゴールの見通しを共有するための評価基準の作成

- ・児童の成果物等を通しての評価力の向上

(2) 環境づくり

(ア) 児童の意欲を育む学習基盤づくり

- ・共感的・協働的な学級集団づくり

- ・学習環境づくり

- ・授業のユニバーサルデザイン化

(イ) 日常的な取組

- ・読書活動の充実（読書タイム，読み聞かせ）

- ・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

- ・家庭学習の定着

5 研究の方法

- (1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）
- (2) 授業研究（一人一回以上の授業研究を実施）

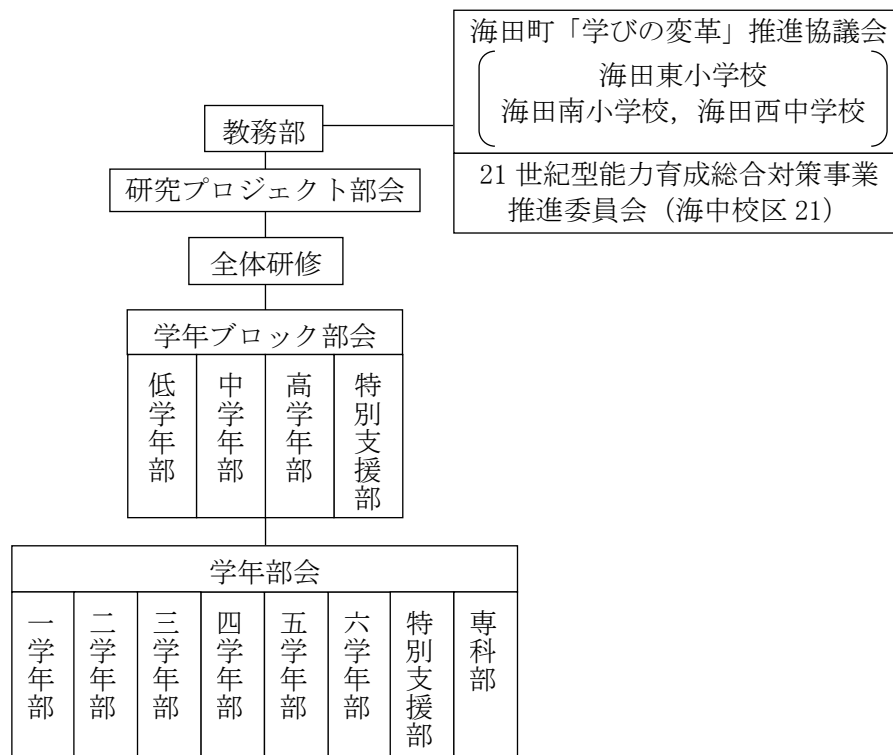
○授業実践を参観し、視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ、有効な手立てについて検証するために
 - ア 低・中・高学年ブロックで、単元構成を行う。（海田東小学校版「学びのドリームプラン」の作成）
 - イ 学年部会で「学びのドリームプラン」及び指導案を作成する。
 - ウ 低・中・高学年ブロックで「学びのドリームプラン」及び指導案検討をし、修正をする。
 - エ 学年で事前授業を行い、指導案の修正をする。
 - オ 全体授業研修を行う。
- ・国語科の「書くこと」の領域を中心とした単元，総合的な学習の時間に絞って授業研究を行う。
- ・パイロット教員は，中心的に単元開発に関わり，学年部と連携し，授業をコーディネートする。
- ・「学びのドリームプラン」は，起案の手続きをして，決裁を受けてから本単元の学習に入ることとする。
- ・事前授業は，3日前には全体に知らせ，できる限り多数で参観する。
- ・全体授業指導案は，起案の手続きをして学年部で印刷，配布をする。講師の先生にも2週間前には送付する。
- ・全体授業指導案は，3日前までに全職員に配布し，参観者は必ず目を通しておく。
- ・学習終了後には，協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を作成し，起案する。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 授業研究の検証（成果物，授業記録の研修）
- (2) 学力調査と調査問題検証
- (3) 児童・教職員の意識調査の実施と分析
- (4) 保護者の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科部は、少数指導・音楽・理科で構成し、日本語学級は特別支援部に入る。

※専科部の学年ブロック部会は、実施学年の該当するブロックで検討を行う。

※総合的な学習の時間については、専科・日本語学級担当は各学年に入り研究に参加する。

※全体研修においては、授業記録及び印刷・写真・協議会会場準備などの役割分担を行う。

8 具体的な研修計画 (予定)

月	日	曜	研究内容
4			校内研修 研究主題 推進方針 研修計画について 全体研 理論研修 本年度の方向性について
5	18	水	全体授業研究・理論研修 (6年 国語科) 5校時 13:40~14:25 パイロット教員示範授業 (講師: 関西大学 教授 黒上 晴夫)
6	9	木	校内授業研究① (2年3組 国語科) (3年1組 国語科) ※協議会は9日(木)または10日(金)
6	24	金	校内授業研究② (4年3組 国語科) (6年2組 国語科)
6	28	火	全体授業研究 (5年1組 国語科) 5校時 13:55~14:40 (講師: 広島大学 教授 難波 博孝)
7	13	水	校内授業研究③ (なかよし1組 生活単元学習) (専科 理科)
9	14	水	校内授業研究④ (4年1組 総合的な学習の時間) (講師: 広島県教育委員会 指導主事)
10	19	水	海田中学校校区研究会全体授業研究

10	26	水	校内授業研究⑤（1年2組 生活科） （6年3組 国語科）
11	9	水	授業研究（5年2組 理科） 5校時 （講師：広島大学大学院 准教授 松浦 拓也）
11	10	木	校内授業研究⑥（2年2組 国語科） （3年2組 総合的な学習の時間）
11	30	水	校内授業研究⑦（6年1組 総合的な学習の時間） 5校時 （講師：鳴門教育大学 教授 村川 雅弘）
12	14	水	校内授業研究⑧（なかよし3組 総合的な学習の時間） （専科 少人数）
1	20	金	校内授業研究⑨（1年3組 国語科） （3年3組 国語科）
2	2	水	校内授業研究⑩（5年 国語科） 5校時 パイロット教員示範授業 （講師：広島県教育委員会 指導主事）
2	10	金	校内授業研究⑪（1年1組 生活科） （4年2組 国語科）
2	16	木	校内授業研究⑫（2年1組 生活科） 5校時 （講師：広島県教育委員会義務教育課）
2	24	金	校内授業研究⑬（なかよし1組 生活単元学習） （日本語学級） （専科 音楽）

※一人一研究授業以上授業提案を行う。

※理科については、理科教育推進委員会の授業研究と兼ねる。

※パイロット教員は年2回（5月18日、2月2日）の研究授業（5年国語科）を行う。（広島県教育委員会 指導主事が訪問。全体研修を行う。）

※「海中校区21」の授業研究には、全員1回以上参加する。

海中校区21の日程

月	日	曜	研究内容
12	1	木	海田中学校（国語科） 講師：（広島大学大学院 教授 難波 博孝）
1	31	火	海田南小学校（総合的な学習の時間） 講師：（関西福祉大学 助教 新川 靖）
2	9	木	海田南小学校（国語科） 講師：（広島大学大学院 教授 難波 博孝）